

# みどりひと



みどりの新聞 平成20年9月20日 発行 No.145

専門家に聞く

## 園芸ワンポイント

指導  
澤地 家治  
先生

みどりに関する専門相談は  
塚山公園みどりの相談所  
TEL 03-3302-9387 (毎週土・日曜日)

### シャクヤクの育て方

#### 株分け

植え付けてから4、5年たった株は大株になり、弱るので、株分けをする。株分けは9月頃が適期。根を傷めないように広く掘り上げ、芽が3~4個つくようにして、ナイフなどで切り分けます。このとき、古い茎は切り捨ててください。

#### 植え付け

排水が良く、有機質の多い土壌を選びます。株分け同様、9月頃が植え付けの適期。直径・深さともに40cmほどの深さに掘り、元肥を施します。間土を入れ、その上に株を植えるようにします。芽の上に3~4cmくらいの土がかかるように覆土してください。

#### 肥料

シャクヤクは非常に肥料を好む植物なので、多めに与えます。植え付け時の元肥には堆肥または腐葉土と化成肥料を2にぎりほど混合します。油かすでも良いでしょう。3月には芽出し肥、花の咲き終わった6月にはお礼肥を与えます。



#### シャクヤク

キンポウゲ科。中国北部シベリアの南東部、朝鮮北部地方に自生する耐寒性の強い宿根草。夏の高温多湿には弱い。古くから根は漢方薬として用いられてきた。「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」と美人の形容詞にもなるほど、美しい花が特徴。

#### 苗を買うときの注意

太い花芽を3つ以上つけ、根が大きく放射線状に張った株を選びましょう。乾燥していたり、細根に小さいコブ(ネコブ線虫によるもの)がついているものは避けます。



#### 年間作業カレンダー

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育サイクル	越冬休眠		発芽		開花	芽や根茎の充実期						越冬休眠
作業					花から摘み				植付、株分			
肥料			芽出し肥			花後のお礼肥			元肥			



澤地家治 (さわち いえはる)

杉並区みどりの相談所専門相談員。樹木医。たくさんの貴重な木の診察・治療を行った経験を生かし、家庭の園芸のアドバイスをくださいます。昔から植物が好きで、自己流で挿し木をしたりしていたところ、それが自然に職業になっていたそうです。椿が好きで珍しい品種も育てておられるそうです。

#### 編集後記 「みどりひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

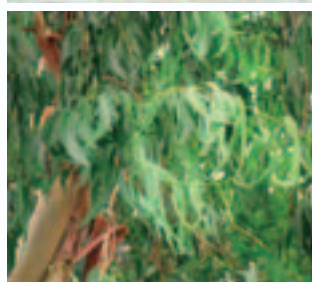
- 道すがら、生い茂った樹木の間からさわやかな風が…。みどりを吹き抜けてきた風の心地よさを、改めて痛感しました。(羽)
- みどりひとに参加させていただいてから、街の木や草花がとても気になるようになりました。秋の紅葉が楽しみです。(相)
- 海外旅行もいけれど、自分の近所を見つめると、本当に思いがけない発見があることを感じました。(中)
- まだ暑い日がありますが、草むらでカネタタキが鳴くようになり、秋の気配を感じています。(山)
- 夏草はとても元気。いつの間にかどンドン伸びて繁っています。夏バテの身としてはなんだか羨ましい…。(朋)

みどりの新聞 みどりひと145号 平成20年9月20日発行

編集/みどりのボランティア  
編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 03-3312-2111  
「みどりひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.city.suginami.tokyo.jp/>



大豆インク使用。ケナフ100%紙使用。



### 連載 すぎなみ きになる木

### 阿佐谷けやき公園の不思議な木

### ユーカリノキ

JR阿佐ヶ谷駅北口から高円寺に向かって線路沿いに五分ほど歩くと、阿佐谷けやき公園という小さな公園があります。今回ご紹介するのは、この公園の真ん中に立っているユーカリノキ(フトモモ科ユーカリノキ属)です。ユーカリはコアラの食料となる木として有名ですね。また、葉や、葉からとれるユーカリ油は薬として古くから用いられてきました。消炎、殺菌、鎮痛などの効果があるそうです。最近インフルエンザや花粉

症の症状緩和効果が期待され、アロマテラピストや健康茶などに利用されています。ユーカリは原産地であるオーストラリア南東部とタスマニア島に主に分布し、大変種類が多く、現在、世界には六〇〇種以上存在しており、私たちはこのうちわずかな種類を目にすることができます。

阿佐谷けやき公園のユーカリも、薬効こそ利用されていないものの、昭和五十六年に公園として整備される以前からいつも人々の生活の隣にいました。以前この場所には中央大学の五〇メートルプールがあり、この頃ユーカリは三本に株別れして立っていました。そのうち二本は倒木したため伐採されましたが、残った一本は高さ二〇メートル、直径七〇センチほどの堂々とした大木となっています。そしてその姿は大変ユニークです。太い幹は少しねじれながら伸び、樹肌は象牙色で木とは思えないほどすべすべと滑らかでとてもきれいです。しかし、毎年剥離する褐色の樹皮が何本もたれさがっている様子は、まるでぼろ布が絡まっているように見え、いささか不気味です。葉も独特で、灰緑色、長さ一〇〜二〇センチの細長く鎌の刃のようにカーブした形の葉がしだれています。またほのかにユーカリ油の香りがします。開花時期は四〜五月ですが、白い花が咲くその頃はまた違う印象の木になります。

見たところは少し変わっているけれど、昔から人々の暮らしに役立ってきた不思議な木…これからも大事に育ててゆきたいですね。



# 緑の歳時記

杉並区内でよく見かける帰化植物



## タマサンゴ (玉珊瑚) ナス科

### ブラジル原産の常緑低木

茎は高さ50cmほどになり、よく枝分かれして、こんもりと茂ります。葉は先の尖った長楕円形の全縁で波状になり、短い柄があって互生します。夏から秋にかけて白い星形の直径1.5cmくらいの花をつけます。果実は大きいものは直径1.5cmの球形で、緑色から黄色～赤色に熟し、翌年の春まで残ります。

明治年間の中期に観賞用として渡来し、鉢植えなどで栽培されていますが、区内の公園や庭、道端でも野生化したものが見られます。右の絵のタマサンゴは杉並区役所青梅街道側のバス停付近でスケッチしました。寒い時でも赤い実が珊瑚のようなので、別名をフユサンゴともいいます。



花



## 杉並のみどりはどうなってるの?

—平成19年度杉並区みどりの実態調査報告 その2 接道部調査編—

みどりの実態調査は、区内のみどりの実態を把握するため、昭和47年より5年ごとに実施しています。調査は接道部調査や、前号で掲載した緑被率調査の他、樹木調査、樹林調査など10以上の内容です。

今回は、接道部調査の結果についてお知らせします。接道部とは、道に面している敷地のことです。区全体では、接道部は約1,941kmありました。このうち約447kmが緑化されており、接道部全体に占める割合(接道部緑化率)は**23.03%**でした。

また、約599kmの接道部には緑化できる可能性(緑化余力有り)がありました。塀を生垣にしたり、フェンスにつる性の植物をからませて接道部を緑化することで、防災上も安全で、視覚的にも素敵なまち並みとなります。接道部の緑化には、塀の取り壊し費用なども含む助成がありますので、是非ご活用下さい。

### ■助成に関する問合せ

みどりの事業係 (03-3312-2111)

接道部の状況				
大分類	種別	延長 (m)	大分類に対する割合 (%)	全接道部に対する割合 (%)
緑化有り	生垣	90,048.2	20.14	4.64
	植込・植樹帯	288,387.6	64.50	14.86
	緑化フェンス	16,351.8	3.66	0.84
	その他緑化	52,324.7	11.70	2.70
	小計	447,112.3	100.00	23.03
緑化余力有り	ブロック塀	198,504.0	33.14	10.23
	万年塀	38,074.5	6.36	1.96
	フェンス	169,642.1	28.32	8.74
	その他の塀	150,401.6	25.11	7.75
	その他	42,446.0	7.09	2.19
	小計	599,068.2	100.00	30.86
緑化余力無し		894,914.5	100.00	46.10
区合計		1,941,095.0	100.00	100.00

※割合は小数点第3位を四捨五入しています。

## みどり探訪

### 一地域と共に守り、育てる貴重木

貴重木とは、杉並区みどりの条例に基づき指定されている保護樹木のうち、特に大切に残そうとしている樹木です。

## 荻窪のモチノキ・モッコク・ケヤキ・ハクウンボク

善福寺川の神通橋より階段状の道を西へのぼった荻窪1丁目の小高い丘の上に、区指定の貴重木が4本そびえ立つ屋敷林があります。車が通り抜けできない小路は近隣の人々の散歩道になっていて、平成16年2月に『第8回杉並「まち」デザイン賞』を受賞する大きなポイントとなった生垣が見られます。杉並「まち」デザイン賞は、建築を中心に表彰するもので、このお宅では建築とみどりが一体となって「まち並み」づくりに貢献している点が評価されました。

関東大震災以前からあったというモチノキは、大久保から植木屋さんが買いに来て先代が売らなかったという逸話があり、今も屋敷の東側で丸く茂っています。近くにはモッコクが形よく手入れされていて、西側にはケヤキが30m近い高さを誇り、6月ごろに白い花を咲かせるハクウンボクが、7月末に丸い実をつけていました。敷地内には貴重木のほかに、区の保護樹木も5本あり、地域の貴重な緑のオアシスとなっています。

ご当主によると、菩提寺である中道寺(荻窪2-25-1、天正10年(1582)開山と伝えられる)の過去帳を見ると、現在17代目とのこと。屋敷周辺で畑作を営まれ、柿などの果樹も多数あります。区内では数少ないギンモクセイの大木があり、秋には銀色の花が見られるほか、キンギョツバキやヒカンザクラなど珍しい品種の木があって花もいろいろ楽しめます。昆虫や鳥が数多く訪れ、蛇や狸も見られるそうです。

木々が多く1年を通して落ち葉があるので掃除が大仕事とのことでしたが、区の都市農業係に登録した農業ボランティアの区民が、週2回ほど庭の手入れなどを手伝ってくれているそうです。

※個人宅につき屋敷内に入ることはできませんが、鎮守の森を彷彿とさせるたたずまいを、散策路から眺めていただくようお願いいたします。



ご当主(右から2番目)と農業ボランティアの皆さん



ハクウンボクの実